

第8回交流観光まちづくりプラン推進会議議事録

(平成31年3月27日14:30~16:00、福野庁舎201会議室)

14:31 高橋光幸委員長 (元富山国際大学現代社会学部教授)

昨年3月に退職して、今日は東京から来た。新幹線で、外国人から荷物置き場について質問を受けたが答えられなかった。インバウンドの受入というのは、こういう外国人のために情報を提供してあげるといふことなのだと思う。国が盛んに受入拡大を目指しているが、受入環境の整備としてきめの細かい取組みが必要だ。

少し前にある国の人と話したときに、「南砺市」と言ったら「チューリップのきれいなところですね」と言われた。砺波市と南砺市を混同している人は多く、もっと南砺市のことを知ってもらわなければならない。

2月に湯河原温泉の梅林に行った。この梅林は地元の方が植えたもので、それが70~80年の時を経て観光資源になっている。我々が取り組んでいるインバウンドも、100年単位で考えていかないと、打ち上げ花火で終わっちゃうんじゃないかなと思う。

本日の会議の中心議題はインバウンドをどう進めるかということ。これからの事務局の報告を踏まえて多様な意見を頂きたい。よろしくお願いします。

(以下、交流観光まちづくり課片田係長より資料に沿って説明)

15:25 高橋委員長

これから南砺市の国内観光やインバウンドを進めていく上で、どうあるべきか、皆さんから意見を賜りたいと思います。野原部長、南砺市のこれからの進め方についてどう思いますか。

15:26 野原善一氏 (南砺市観光協会事業部長)

南砺市観光協会は南砺市と共にインバウンド受入に取り組んでいるが、どこを向いていくか方針が具体化していないのが課題である。事業者によって、インバウンド受入の方針に賛同する・しないがあるので、早く方針を明確にしたいと考えている。

国内旅行は良い状態が続いているので継続していきたい。また、今後は北陸新幹線の敦賀延伸を見据えて、関西方面にPRをしていきたい。具体的な取組みは定まっていないが、来年度に開催予定の京都会議について、京都市観光協会とやりとりしている。これからも力を借りていきたい。

15:28 高橋委員長

ありがとうございました。今、インバウンドを進める上では早くに方向性を定めることが重要とのご意見がありました。国内旅行は関係機関と連携してプロモーションをすすめるべきとのご意見がありました。インバウンドについて、山本さん、いかがでしょうか。

15:29 山本誠一氏（公募委員・薪の音代表）

薪の音は旅館コレクションに加盟した。金沢を訪れるインバウンドの多くは富裕層で、城端にもぼちぼちと入ってきている。これからはインバウンドの富裕層しかないと考えている。金沢は有料のガイドやタクシーなどの受け入れ態勢が充実しており、安心してインバウンドを任せられる。南砺市はこれらに加えて、レストランやお土産屋さんの言語対応が必要だと思う。さらに、金沢～高山間のバスは予約が必要で、当日予約がとれないことがある。金沢～南砺～高山の便利な交通手段がないと致命的だと思う。

エージェントから来たお客さんは質の高い体験を求めている。井波彫刻や五箇山和紙などの深い体験ができるものを用意してほしい。

やはり交通手段の充実が大前提だと思う。金沢に来るお客さんは、金沢で3泊程度して、金沢に来てから周辺に観光に行く。小判鮫のように、金沢や高山に来たお客さんをどう引き込むかに特化した方がよい。

15:33 高橋委員長

今、金沢からお客さんを呼ぶべきで、そのためにも南砺市までのバスやタクシーなどの整備が必要との意見がありましたが、山田さんはどう思いますか。

15:35 山田晃氏（となみ野観光連盟）

北陸新幹線開業前は金沢から来る人が多かったが、開業後は県内から来るお客さんのほうが多い。金沢を訪れる人は金沢の中で収まっている感覚がある。

JRや加越能のバスは1台あたり数人しか乗っていない。観光客の動く時間帯にバスが走っていないのが問題なので改善すべきだと思う。今は住民が使いやすい時間帯に偏っている。

対象にするのはインバウンドだけでいいのかとも思っている。確かに世界の人口は日本の人口よりも多く、お金を落としてくれるのも外国人だが、まだ受入体制が出来ていないのは間違いない。インバウンド対応をどこまでやればいいのか、そもそもやっっているのかどうか分からない。うちは外国人は風呂に入りに行くだけで宿泊はない。風呂に外国人向けのマナーの掲示をしたら、外国人はマナーを守って入っている。しかし日本人のマナーは悪い。日本人と外国人の区別をするのではなく、一緒にできるようなことが大事なのではないか。

15:43 山本誠一氏

日本人をないがしろにしているわけではないが、これから人口が減ることを考えると、インバウンドを取り込まないと経営が成り立たない。うちは旅館コレクションに入ったが、対策しているところは集客を図れている。インバウンドの対応をやらないといけないということは、間違いないと思う。

15:44 高橋委員長

他の皆さんはご意見ございますでしょうか。

15:45 村上幸子氏（南砺市観光協会理事）

五箇山でタクシー事業を行っている。外国人のお客さんとは、iPhoneなどでなんとかやりとりしている。それよりもキャッシュレス対応などの補助金を出して欲しい。やっぱり日本人と外国人は別だと思うので、複数の言語を併記するなどの対応をすべき。急に変わる必要はないが、お客さんの立場に立って少しずつ対応すべきだと思う。

15:46 高橋委員長

なるほど。他の皆さんはいかがでしょうか。

15:46 楠順子氏（南砺市観光ガイド連絡協議会長）

井波の着付け体験と庄川峡クルーズが人気。最近は協会経由のお客さんやロコミで来るお客さんも増えている。

外国人が求めているのは質の高い体験。コラレアルチザンジャパンの山川さんは3時間の体験で6,000円を取っており、若い彫刻師さんと一緒にスプーンを彫る。山川さん自身も最初は高いと思っていたが、やってみるとすごく大変だし、外国人のお客さんからもプロを3時間も拘束して一緒にできるのは安いという感想が出ている。

井波～金沢のバスは、金沢市内では他に経由地がない。地元の学生は恩恵を受けているが、金沢駅でおりてもどこに乗り場があるか分からない。バスがあることが分かれば乗る人は増えるので、宣伝をもっとしてほしい。

高山や白川郷からくるお客さんは、「井波や相倉は人が多くなく落ち着いていて良い」と言う。南砺市に観光客を引っ張ってくる方策が必要だと思う。

15:53 高橋委員長

ありがとうございます。佐々木さん、いかがでしょうか。

15:54 佐々木隆博氏（東日本旅客鉄道株式会社北陸営業センター所長）

東日本エリアからの誘客をメインに取り組んでいる。国内向けには、びゅうと大人の休日倶楽部でのPRや商品造成を行っている。インバウンド関係では、北陸アーチパスの引き換え拠点の運営を行っている。

北陸新幹線の乗車人員が、前年比で1%を上回った。これは鉄道業界ではすごいこと。自治体のPRのおかげだと思っており、感謝している。

これからは五箇山や井波など、それぞれでターゲットを絞って強みを生かすことが大事。ターゲットを明確にすることが大事だと思う。首都圏からのFITはJR東日本に頼って頂

いても良いが、どこと組んで何に資源を投入するか、明確にすべきだと思う。金沢との連携においても、連携先の強みは何か明らかにすべきだと思う。また、目標が宿泊数でいいのかという点も精査すべき。南砺市は強みをもっているので、ターゲット戦略をしていくべきだと思う。

16:00 高橋委員長

まだまだ皆さんのご意見を賜りたいところですが、お時間が来ましたので、ここで自由議論は終わりにさせていただきます。

16:01 米澤正好事務局長（交流観光まちづくり課長）

どうもありがとうございました。大変貴重なご意見を頂いたと思っております。これで会合は閉じさせていただきますが、今日のお話しの中で、ターゲットを絞ることが大事とお話しがありました。これまでも国別などの話は4月からしてきましたが、今後、どう連れてくるかということと、情報をどう発信するかということ、現地に来たときに不安なく滞在してもらうことについて、事業者様の後押しをしていくことが行政側として大切だと思っています。今日はどうもありがとうございました。

(以上)